

令和7年度 西が岡小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び、自ら考え、主体的に判断して生きていくことのできる、心身ともに健康で、心豊かな、たくましい児童を育成する。

<目指す児童像>

- (1) 明るく元気な子ども（体力・気力）
- (2) よく考えて学習する子ども（創造力）
- (3) 心豊かで思いやりのある子ども（責任・思いやり）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

教育目標の達成を目指し、子どもの主体性を育て、希望に満ちた明るく楽しい学校づくりをするために、全職員が和と協力、熱意、そして人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育に取り組み、新しい時代の教育に向けた持続可能な活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

<目指す学校像>

- (1) 楽しく充実したみんなと生きる学校
- (2) 子どもと教師が共に育つ学校
- (3) 地域とともに歩む笑顔あふれる学校

<合言葉> 元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる 西が岡

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 安全安心な学校づくり

「生きる力」を育み、児童が生き生きと活動し進んで学べるようにするために、日常の安全管理に努め、安全確保に努めるとともに、全ての児童が安心して生活を送ることができるよう、いじめ等の未然防止や安全教育の充実に努める。

(2) 自己肯定感を育む学級経営と教育活動の充実

一人一人の存在を互いに認め合い、他者と関わる力を高め、学習や生活の基盤として居心地がよく安心感ある学級づくりに努めるとともに、自信と意欲を育み、よさを十分に発揮できる教育活動の展開に努める。

(3) 確かな学力の向上

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、一人一台端末を活用した個別最適な学びや協働的な学びを推進し、学ぶことの楽しさや成就感を体感させ、家庭との連携を図りながら、基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ態度の育成に努める。

(4) 豊かな心の育成

道徳教育や体験活動、読書活動の充実を通して「生命や人権を大切に作る心」「思いやりの心」や創造性を育み、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。

(5) 児童指導の充実

児童理解に努め、信頼関係を構築し、全職員で方針を共有して行動力や判断力を育成するとともに、家庭との連携を図り、規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める。

(6) 体力の向上と保健安全教育・食育の充実

進んで運動に親しむ体育指導と、健やかな体を育む食育・保健指導の充実を図り、家庭や地域社会との連携を図りながら、健康・体力の向上に努める。

(7) 小中一貫教育の推進

学校園で行う認め励ます指導を通して自尊感情を育み、学習や活動の交流を図り、小中一貫教育を推進する。

(8) 特別支援教育の充実

多様性と人権を尊重し、特別支援教育の視点を大切にされた教育環境の醸成に努めるとともに、配慮が必要な児

童に関して、心身の発達段階や特性を踏まえたかわり方や支援の方策等の対応力を高める。

(9) 教職員の資質の向上

人権尊重の理念を重視した教育活動を実施し、個々の教員が資質向上に努め、学び合いを高めて、児童や保護者から信頼される教職員集団を目指すとともに、「チーム学校」として組織的に諸課題に対応する力を高める。

(10) 地域とともにある学校づくり

家庭や地域と連携し地域の教育力を生かした学校教育の充実を図り、情報発信の充実に努め、連携・協働した取組を推進することで、よりよい社会の一員として積極的に行動する児童を育成する。

(11) 働き方改革の推進

働き方の見直しを図り、心身ともに健康に専門性を発揮して効果的な教育活動に専念するための業務の適正化を図り、新しい時代へ向けた持続可能な教育体制を目指す。

[宝木地域学校園教育ビジョン] 「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します。

～他を思いやる心や規範意識を育み、基本的な生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の充実～

4 教育課程編成の方針

(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、同施行規則、小学校学習指導要領等の法令並びに栃木県教育委員会の方針「栃木県教育振興基本計画」、宇都宮市教育委員会の学校教育の重点「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」「令和7年度指導の重点」の示すところに従い公教育の立場を堅持し、本校の教育目標達成のため、調和と統一ある教育課程を編成する。

(2) 児童の実態や学校の特色や地域のもつ豊かな教育力を生かして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。

(3) 本年度の学校教育目標、学校経営方針、努力点や具体策、学校課題の具現化を図るとともに、学校教育の活性化を図る特色ある教育課程の編成をする。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○ 認め励ます教育を推進し、家庭や地域社会との連携を図りながら社会の一員としてよりよく生きる意識を高め、縦割り班活動を中心とした体験活動や読書活動などを通して豊かな心と主体性を育む。

(2) 学習指導

○ 児童の実態や特性を踏まえ、主体的に学ぶ意欲や学習習慣の育成を図るとともに、基礎・基本の確実な習得を目指した分かる授業（宇都宮モデル・西が岡スタイル）を展開し、確かな学力の定着に努める。

・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を意識し、ICT環境の活用や特別支援教育の視点を取り入れた授業の充実を図り、学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。

(3) 児童生徒指導

○ 道徳教育や学級経営の充実を図り、自己を見つめる目を育て、自己統制力を高めて、良好なコミュニケーションの下、他者と協同してよりよく生きようとする児童を育てる。

・ いじめゼロ集会や人権週間等の取組を通していじめを生まない指導・支援の充実を図る。

○ 「よい子の一日」を活用するとともに、具体的な活動を通して「明るいあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成に努める。

(4) 健康（体力・保健・食育・安全）

・ 学校生活における安全を念頭に置いたルール徹底を図り、避難訓練等の実施を通して自身の安全を守るための判断力や実践力を育成する。

・ 体育、保健、食育指導の連携を深めるとともに家庭と連携を図りながら、自己の生活習慣（保健安全・食習慣・体力）を意識して自ら正しく判断して行動する児童の育成に努める。

(5) 働き方改革の推進

・ ICTの活用、校内協働体制の確立、地域と学校の連携・協働の積極的な推進等により校務の効率化を図るとともに、教職員の出退勤時刻の適正管理や定時退勤日の設定等を実施し、勤務時間の適正化を推進する。

6 自己評価

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	表中数字：上段はR7年度 下段はR6年度 太数字：前年度比 ±5ポイント												
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 児童が自分の考えを広めたり深めたりするような学習場面で一人一台端末を活用し、主体的に必要な情報を活用して学習に取り組めるようにする。 ② 「聞き方・話し方・姿勢」を掲示し、意識付けを図る。 ③ 「リレー自学ノート」を活用し、他の友達の良さを実感しながら、進んで自主学習に取り組めるようにする。 ④ 「西が岡スタイル」による「分かる、できる」を実感できる授業の展開に努める。 ⑤ 学校図書館や市立図書館の「巡回図書」、一人一台端末を活用し、児童の情報活用能力の育成を図る。	B	【達成状況】A1 (○) <table border="1" data-bbox="1034 344 1473 465"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.2</td> <td>87.5</td> <td>81.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>92.9</td> <td>83.3</td> <td>86.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が92.2%で目標を達成している。 一人一台端末の活用や西が岡スタイルの授業展開により、進んで学習に取り組む姿が見られた。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、生活や学習の場面を通して、互いに認め合う学級経営を進め、協働的に学ぶ姿勢を醸成する。 一人一台端末の活用場面を工夫する。 担任と学校図書館司書が連携を密に取りながら、教科内容に関連した巡回図書を積極的に活用していく。 	児童	教職員	保護者	地域	92.2	87.5	81.4		92.9	83.3	86.1	
児童	教職員	保護者	地域													
92.2	87.5	81.4														
92.9	83.3	86.1														
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科、探究活動の過程に体験活動を位置づけた総合的な学習の時間の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や思いやる心などを涵養する。 ② ボランティアによる読み聞かせや読書週間を計画的に実施し、豊かな感性の育成を目指した読書活動を推進する。 ③ 縦割り班による異学年の交流活動を設定し、上級生が下級生を助けたり励ましたりするとともに班員が互いに助け合いながら、「西岡タイム」の活動を進めることを通して、思いやりの心を育てる。 ④ 生命尊重や人権尊重に関する各教科等の学習を授業参観で公開したり、親子学習で取り上げたりして、保護者への啓発を行い、親子で思いやりについて考える機会を設ける。 ⑤ 人権週間に標語や作文を書いたり、人権について考える集会活動を実施したりすることで児童や教職員の人権意識を高めていく。	B	【達成状況】A2 (▲) <table border="1" data-bbox="1034 936 1473 1057"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.4</td> <td>95.8</td> <td>93.3</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>88.3</td> <td>91.7</td> <td>92.2</td> <td>86.7</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が89.4%で目標を達成していないものの、児童、教職員、保護者、地域の肯定的回答率は、昨年度と比較して向上した。 縦割り班活動を通して、上級生が下級生に対して優しく接し、思いやりの心が育っている。 【次年度の方針】 <ul style="list-style-type: none"> 道徳科の授業を充実させ、児童の思いやりの心を涵養する。 縦割り班活動の充実を図り、引き続き、異学年の交流活動を通して、思いやりの心を育てていく。 引き続き、人権週間を充実していくとともに、各学級で互いのよさを認めるなどの日常的な実践を積み重ねていく。 	児童	教職員	保護者	地域	89.4	95.8	93.3	88.2	88.3	91.7	92.2	86.7
児童	教職員	保護者	地域													
89.4	95.8	93.3	88.2													
88.3	91.7	92.2	86.7													

	<p>A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>② 授業において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、課題の解決に向けて自分から進んで考え、試行錯誤しながら課題を解決しようとする態度を称賛する。</p> <p>③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、日常生活における道徳的な実践に向けた意欲を高める。</p> <p>④ キャリアパスポートや振り返りカードを活用して、振り返りを行い、各種行事における達成感を味わえるようにする。</p> <p>⑤ 第6学年において地域や企業と連携して「宮っ子『夢』教室」を実施し、自分の将来に向けた夢を持つ学習を実施する。</p>	<p>【達成状況】A3 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 174 1473 293"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90.1</td> <td>87.5</td> <td>82.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>91.1</td> <td>75.0</td> <td>77.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が90.1%で目標を達成している。 学級活動や帰りの会で互いに認め合う場を設定し、多くの児童を称賛することができた。 学校行事や児童会活動において、児童一人一人が目標に向かって粘り強く取り組んでいた。 <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアパスポートや各種振り返りカードを活用して、活動の振り返りを行い、達成感を味わえるようにする。 引き続き、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、教職員も認め励ます指導に努める。 学校の教育活動で児童が満足感・達成感を感じた様子を保護者に伝え、児童の成長を共有していく。 教職員が、日々の児童の取組や成長を認める意識をさらに高め、様々な場面で児童のよさを伝え合う。 	児童	教職員	保護者	地域	90.1	87.5	82.3		91.1	75.0	77.2	
児童	教職員	保護者	地域												
90.1	87.5	82.3													
91.1	75.0	77.2													
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上</p>	<p>① 休み時間の過ごし方や廊下の歩行、登下校時の歩行について、自分で考えて安全に行動できるよう日常的に安全指導に努める。</p> <p>② 生活チェックシートを活用して、担任や養護教諭、学校栄養士等による個別指導を充実する。</p> <p>③ 「おべんとうの日」には、発達段階に応じたワークシート等を活用して栄養のバランスに配慮した献立が立てられるよう支援する。</p> <p>④ 委員会活動を通して、上級生を中心に児童が自ら健康や安全について考える場を設定し、学校全体で生活面で実践する機会を設ける。</p>	<p>【達成状況】A4 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 1070 1473 1189"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.8</td> <td>75.0</td> <td>88.3</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>91.1</td> <td>70.8</td> <td>86.8</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が91.8%で目標を達成している。 休み時間の校庭での過ごし方や廊下、登下校の歩行の仕方について、怪我の防止や安全な行動をとることについては、今後とも指導が必要である。 委員会活動を通して、全校児童に健康・安全に関する呼びかけを行ったことは有効であった。 <p>B 【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校での生活に関して決められているルールについては、児童が自ら安全な行動を意識し、落ち着いた生活が送れるよう指導の徹底を図り、児童の生活状況を踏まえ、重点化を図ったり、継続指導をしたりしていく。 業間や昼休みにおける校庭での遊び方や用具の使い方等について、委員会活動などを通して、児童が自律的に行動することができるよう、呼びかける機会を設ける。 今後も、「お弁当の日」は、ワークシートにねらいを明記し目的意識を持たせ、家庭と連携しながら栄養バランスに着目した食育を進める。 	児童	教職員	保護者	地域	91.8	75.0	88.3	100.0	91.1	70.8	86.8	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
91.8	75.0	88.3	100.0												
91.1	70.8	86.8	100.0												

1- (4)
将来への希望と協働する力を育む教育の推進

A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」における肯定的回答

⇒児童80%以上

- ① 宮・未来キャリア教育に関わる活動を生活科、総合的な学習の時間等の年計へ位置づけし、系統的に学習する。
- ② 学級活動や係活動などにおける実践的な活動を通して自分の役割を意識し、問題を主体的に解決し、生活をよりよくしようとする意識を高める。
- ③ 地域人材やボランティアを活用し、仕事や職業観についての話を聞く機会や体験的活動を設定して、学習や生活と職業とを関連付ける。
 - ・2分の1成人式（4年）
 - ・夢いっぱい教室（6年）
 - ・町探検（2年）
- ④ 学級活動や委員会活動で、キャリアパスポートへの活動記録を累積させ、自己の成長を自覚させる。

【達成状況】A5 (○)

児童	教職員	保護者	地域
87.7	83.3		
89.3	91.7		

- ・児童の肯定的回答が87.7%で目標を達成している。
- ・学級活動や委員会活動を通して自分の役割を意識し、課題を主体的に解決し、生活をよりよくしようとする意識が高まった。
- ・学級活動や学校行事で、キャリアパスポートへの活動記録を累積したことで、自己の成長を自覚することができた。

B

【次年度の方針】

- ・地域人材やボランティアを活用して、夢いっぱい教室、町探検などの活動を継続し、様々な仕事について知ることで、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を養っていく。
- ・引き続き、学級活動や学校行事で、キャリアパスポートへの活動記録を累積し、書いた内容について、教師や友達と認め合う時間を設けたり、行事前（目標）と行事後（評価）をセットにして記録させたり、学年を超えて記録を見返し、長期的な成長を自覚させたりしていく。

2- (1)
グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進

A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答

⇒児童80%以上

- ① 低学年から、学級担任とALTによるT・Tによる指導を進め、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ外国語学習への動機付けを高めるとともに、高学年においては段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に行い、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ② 職員研修で英語の教材開発やICTを活用した指導法の工夫や改善などを行い、授業力の向上を図る。
- ③ ALTによる絵本の読み聞かせを行ったり、朝の時間に英語の歌を流したりして、英語に親しみやすい雰囲気づくりを行う。

【達成状況】A6 (▲)

児童	教職員	保護者	地域
79.2	95.8		
77.9	87.5		

- ・児童の肯定的回答が79.2%で目標を達成していない。
- ・児童は「英語に触れる環境（インプット）」は整ったものの、「自分の言葉として相手に届ける成功体験（アウトプットと承認）」が、全児童が自信を持てるほどには十分に確保できていなかったことが、主因ではないかと考えられる。

A

【次年度の方針】

- ・インプットに偏らない「目的のあるやり取り」の場面を毎時設定し、発話の機会を確保する。「単語や身振りでも通じた」という成功体験を教師が価値付け、コミュニケーションへの自信を育んでいく。高学年ではデジタル機器の活用により読み書きの負担を軽減し、英語を道具として使いこなす「成功実感」をさせていく。
- ・昼休みや業間の時間にALTによる絵本の読み聞かせやハロウィンやクリスマスなどの外国の文化や行事に関連したイベントを企画し、外国語や外国の文化に親しむ機会を設け、英語に親しみやすい雰囲気づくりを行う。

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを 知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っ ている。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時 間の学習や、市内や地域での校外学習 等において、学習内容に関連させなが ら児童が身近な地域や宇都宮市の良 さに気付く指導に努める。 ②宮っ子伝統文化教室等の体験的な学 習を計画的に実施し、郷土宇都宮の歴 史や伝統文化を理解する学習を実施 する。 ③下野民話の会の方の読み語りと連携 し、宇都宮に関する民話を聞く機会を 設け、伝統文化に慣れ親しませる。</p>	<p>【達成状況】A7 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 165 1473 286"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>84.6</td> <td>79.2</td> <td>66.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>89.0</td> <td>87.5</td> <td>62.7</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が84.6%で目標を達成している。 知識の習得に留まらず、体験活動を通して「郷土の魅力」を多角的に体感できたことが、高い肯定回答につながった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、高い肯定回答が得られた体験活動や外部講師との連携を継続し、宇都宮のよさや伝統文化を実感できるようにする。 さらに、得た知識を「「すごい!」を見つける」、「自分の言葉でまとめる」、「誰かに伝える」などの学習活動により、自ら発信する「発信型の学び」として各学年に取り入れ、郷土への愛着を「誇り(シビックプライド)※」へと昇華させる取組を強化していく。 	児童	教職員	保護者	地域	84.6	79.2	66.5		89.0	87.5	62.7	
児童	教職員	保護者	地域												
84.6	79.2	66.5													
89.0	87.5	62.7													
<p>2-(2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や 図書等を学習に活用して いる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、パソコンや図書等を学 習に活用している。」における 肯定的回答 ⇒児童85%以上</p>	<p>① 「一斉学習」、「個別学習」、「協働学 習」それぞれの学習場面において、デ ジタル機器を活用した効果的な学習 指導に努める。 ② 児童が授業においてデジタル機器 や図書資料を活用して、情報を収集・ 整理・発信する活動を充実させ、それ らを活用する能力の育成を図る。 ③ 家庭学習において一人一台端末の 活用を図る。 ④ 学校図書館の環境整備に努め、授業 学習内容に関連する図書資料を計画 的に準備し、国語の教材や総合的な学 習の時間の調べ学習等に役立てる。 ⑤ 朝の学習において読書の時間や読 み聞かせなどの読書活動を計画的に 位置づけたり、図書だよりを発行し たりするなどして児童の読書意欲を喚 起する。</p>	<p>【達成状況】A8 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 853 1473 974"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87.7</td> <td>100.0</td> <td>83.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>85.1</td> <td>100.0</td> <td>82.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が87.7%で目標を達成している。 情報教育主任や学校図書館司書を中心にデジタル機器や図書資料を活用し、授業を効果的に行った。 外部図書館を利用し、学習内容に応じた図書資料を活用したり、一人一台端末を活用して収集した情報を併用した学習を行ったりした。 AI型個別学習ドリルを活用するとともに、一人一人の習熟度に応じた知識・技能の習得に向けて、家庭と連携し、個に応じたデジタル機器の活用に取り組んだ。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル機器の効果的な活用について、ICT支援員と連携し、一人一台端末を使い、情報を「収集・整理・発信・分析」する力を養う学習活動を積極的に取り入れる。 学校図書館司書と連携し、図書資料の一層の活用を呼びかけるよう、教員と学校図書館司書の話合いの場を積極的に取り入れるようにする。 職員研修でデジタル機器を効果的に活用した学習への理解を深め、授業力の向上を図る。 	児童	教職員	保護者	地域	87.7	100.0	83.1		85.1	100.0	82.3	
児童	教職員	保護者	地域												
87.7	100.0	83.1													
85.1	100.0	82.3													

※シビックプライド：「都市に対する市民の誇り」を意味し、単なる郷土愛ではなく、自発的に街づくりに関わろうとする「愛着」や「当事者意識」を指します。主な言い換えには「地域への誇り」「まちへの愛着」「都市アイデンティティ」などがあります。

<p>2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上</p>	<p>① 各教科・総合的な学習の時間等における環境に関連する学習内容を通して、児童の発達段階に応じた教材分析や授業づくりを行い、持続可能な社会づくりの実現に向けて、児童の見方・考え方を育成する。 ② 各教科で学習した取組を「SDGs17の目標」に関連付けながら実践できる機会を学級活動や委員会活動等で意図的に設ける。 ③ 具体的な SDGs に関する学習への取組状況や持続可能な社会に関する学習の様子を保護者に学校ホームページ等で周知し、家庭と連携することにより、児童の関心をさらに高めている。</p>	<p>【達成状況】A9 (▲)</p> <table border="1" data-bbox="1034 168 1471 286"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87.4</td> <td>62.5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>88.6</td> <td>79.2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答が、87.4%で目標を達成していない。 ・教職員の SDGs についての理解が不十分であった。 【次年度の方針】 ・SDGs への理解を深めるため、ポスターを掲示したり、昇降口に設置した大型TVを利用して身近な SDGs をデジタルサイネージで紹介したりして関心を高めていく。 ・児童の発達段階に応じた教材の開発や授業づくりを行い、持続可能な社会づくりの実現に向けて、児童の見方・考え方を育てていく。 ・「持続可能な社会」に関する教科横断的な学習について、カリキュラム・マネジメントを充実させ、持続可能な未来の創り手としての資質・能力を育成する。</p>	児童	教職員	保護者	地域	87.4	62.5			88.6	79.2		
児童	教職員	保護者	地域												
87.4	62.5														
88.6	79.2														
<p>3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」における肯定的回答 ⇒教職員85%以上</p>	<p>① 校内支援会議を計画的、または必要に応じて開き、個に応じた具体的な支援について協議し、共有して組織的な体制で対応する。 ② 全教職員が様々な視点から児童を観察し、特別支援教育コーディネーターを中心に支援の必要な児童について状況の把握・情報の共有を行い、かがやきルーム担当者と連携しながら学級での支援を充実させる。 ③ SC や外部機関と連携して、個に応じたよりよい支援の在り方について検討し、指導や支援に生かしていく。</p>	<p>【達成状況】A10 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 891 1471 1010"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>95.8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>95.8</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・教職員の肯定的回答が 95.8%で目標を達成している。 ・全職員で協力して、児童の実態に応じて組織的な体制で対応し、適切な支援をすることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も、校内支援会議の計画的な実施と協議内容の周知徹底、かがやきルーム担当者との日常的な情報交換、SC や他の外部機関との連携等を行い、特別な支援を必要とする児童への適切な支援をしていく。 ・各学級における特別支援教育の視点を大切に教育環境の醸成に努める。</p>	児童	教職員	保護者	地域		95.8				95.8		
児童	教職員	保護者	地域												
	95.8														
	95.8														

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。

【数値指標】

全体アンケート

「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」における肯定的回答
⇒児童90%以上

- ① 教育相談を年間2回、アンケートを年4回実施し、児童の実態の把握と問題行動の早期発見に努める。
- ② 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施するとともに、保護者にも公開し啓発に努める。
- ③ いじめ防止に関する資料や学校での取組を懇談会や学校便り、学校HPなどで地域や保護者に積極的に発信する。

【達成状況】A11 (○)

児童	教職員	保護者	地域
96.9	95.8	86.2	88.9
97.2	100.0	81.6	93.3

- ・児童の肯定的回答が96.9%で目標を達成している。
- ・いじめ防止対策の取組について、保護者へ、各種便りやホームページなどで学校の取組を随時周知した。
- ・いじめが疑われる事案が発覚したときには、いじめ等対策委員会を早急に開催し、対応策を検討するとともに複数の職員で対応し、早期解決に努めた。

【次年度の方針】

- ・次年度も教育相談や人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施する。
- ・いじめ防止に関する資料や学校での取組を、学校便りやホームページ等で保護者や地域に積極的に発信する。
- ・引き続き、次年度以降も、児童に学校生活アンケートを実施し、児童の実態の把握や問題行動の早期発見に努めるとともに、教育相談等により児童の不安の解消、教育環境の改善等を図る。

B

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】

全体アンケート

「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」における肯定的回答
⇒児童90%以上

- ① 児童の自己肯定感や安心感が高められるようソーシャルスキルやエンカウンター等を取り入れる。
- ② 不登校対策やいじめ対策を兼ねて、児童指導について情報交換会を実施し、全職員が情報を共有する。
- ③ 電話連絡や家庭訪問等で保護者との情報交換を密に行い、学校生活の不安解消を図る。
- ④ 状況に応じてSCを積極的に活用することで、多様な支援体制による児童及び家庭支援、児童一人一人の状況に応じた適切な働きかけを行う。
- ⑤ Q-U検査結果や教育相談等で実態を把握し、不登校未然防止に努めるとともに、不登校の発生時にはSCMや児童指導主任を中心とした対策委員会を実施し、方針を共有し、全校体制で支援を行う。

【達成状況】A12 (○)

児童	教職員	保護者	地域
94.5	95.8	90.9	
96.1	95.8	88.3	

- ・児童の肯定的回答が94.5%で目標を達成している。
- ・月末の職員打合せ時の児童の情報交換会や緊急の情報交換で全職員での共通理解を図り、児童への対応やあたたかい見守り、関係機関との連携をすることができた。
- ・SCを活用して児童ばかりでなく、保護者との相談・支援を行い、状況に応じた支援を行うことができた。
- ・行き渋り傾向や連続欠席をしている児童については支援会議を行ったり、家庭訪問、オンラインでの対応をしたりすることで、不登校の未然防止や解消に努めた。

【次年度の方針】

- ・Q-Uの検査結果を生かし「学級のタイプ」に応じた集団へのアプローチを進めたり、「支援が必要な子」の早期発見と個別支援を進めたり、教師自身の「指導スタイル」の振り返りを行ったりする。
- ・欠席日数だけでなく、登校渋り、保健室利用の増加、学習意欲の低下、表情の変化など、児童の変化に気付いて対応を進められるよう、教職員間で迅速に情報を共有し、心理的な不安を抱える児童を複数の教職員で見守ったり、必要な支援を講じたりしていく。
- ・別室登校支援の体制を含む環境整備を進め、不登校の未然防止を進める。

B

<p>3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p>	<p>① 学校行事や児童会活動に児童が主体的に取り組む場を設定し、適切な指導・支援・助言をすることにより、児童の達成感・自己肯定感を高める。</p>	<p>【達成状況】A13 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 161 1473 280"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95.9</td> <td>95.8</td> <td>88.9</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>97.2</td> <td>95.8</td> <td>86.1</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	児童	教職員	保護者	地域	95.9	95.8	88.9	100.0	97.2	95.8	86.1	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
95.9	95.8	88.9	100.0												
97.2	95.8	86.1	100.0												
<p>3-(4) 多様な教育 的ニーズへの 対応の強化</p>	<p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上</p>	<p>② ペア学習やグループ学習などの多様な学習形態を取り入れたり、体験的活動の場を設定したりして、児童の意欲を高める。</p> <p>③ 年間4回実施するいじめ調査を効果的に利用し、必要に応じて児童と面談を行い、継続的に児童の実態の把握と問題の早期発見に努める。</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が95.9%で目標を達成している。 米作り体験や昔の遊び・昔の道具の体験等の体験学習を地域住民や保護者に協力してもらい、オープンスクールとして実施したことで、多様な大人からの承認による自己肯定感の向上が図られた。 定期的な調査や教育相談時のみでなく、日頃から児童の様子を把握して教職員が情報交換することにより、いじめ防止や早期解決できるようにした。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別活動が児童の主体的な活動になるよう、計画の見直しや適切な指導・支援・助言ができる教職員の配置やボランティアの活用を行っていく。 「西が岡小よい子の一日」と月の生活目標を運動し、安心して学校生活を送れるようにしていく。 												
<p>4-(1) 教職員の資 質・能力の向 上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上</p>	<p>① 全職員共通理解のもと今年度の学校課題の研究を進める。</p> <p>② 授業研究を行い、指導方法の工夫・改善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 西が岡スタイルの実践 一人一授業公開 授業改善チェックリストの活用 ヒントカードや教材提示の工夫 <p>③ 学校での児童の学習の取組の状況や教職員の研究の様子などについて、学校ホームページで取り上げ、学校での学力向上に向けた研究の様子を家庭に周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学習チャレンジ週間」の実施 西が岡小「家庭学習のすすめ」の配付 <p>④ ノートやワークテスト、プリントなどに励ましやアドバイス・コメントなどを入れ一人一人の意欲を高める。</p> <p>⑤ 学力向上推進リーダーと連携を図り、教員の授業力向上や児童の学習意欲の向上を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】A14 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 920 1473 1039"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>96.6</td> <td>100.0</td> <td>89.2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>97.2</td> <td>91.7</td> <td>85.1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 児童の肯定的回答が96.6%で目標を達成している。 「西が岡スタイル」の徹底により、授業の質が全校で標準化されたことや、ヒントカードやノートへの助言など、個に応じた支援を具体化したこと、学力向上推進リーダーとの連携や相互参観に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一人一授業公開」や「授業改善チェックリスト」を活用し、全教員が「分かる授業」に向けた授業改善を確実に実践する。特に、ヒントカードの提示やデジタル機器の効果的な活用など、個に応じた「きめ細かな支援」の具体策を共有し、授業の質を高めていく。 「家庭学習強化週間」や「家庭学習のすすめ」の活用を継続するとともに、学校HPでの発信を強化することで、学校での研究成果や児童の頑張りを可視化し、学校と家庭が一体となって学力を育む土壌を強固にする。 	児童	教職員	保護者	地域	96.6	100.0	89.2		97.2	91.7	85.1	
児童	教職員	保護者	地域												
96.6	100.0	89.2													
97.2	91.7	85.1													

4-(2)
チーム力の
向上

A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート
「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答
⇒教職員80%以上

- ① 職員会議や打合せ等において各教育活動の計画を確認し、活動の目的や育てたい児童の姿等を明確にし、全職員が共通理解を図ることで、よりよい指導・支援に向けて協力して取り組む体制づくりを進める。
- ② 校内における児童の安全を確保するための見回りを職員全体で役割分担を図りながら行う。
- ③ 全職員が職員会議等で児童の情報交換を計画的に行い、指導や支援の体制について共通理解を図り、組織的・計画的に児童の健全育成を進める。

【達成状況】A15 (○)

児童	教職員	保護者	地域
	91.7		
	79.2		

- ・教職員の肯定的回答が91.7%で目標を達成している。
- ・学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等について、ICT機器の活用を充実させて情報共有を行った。
- ・日頃から教職員同士で情報交換を行い、風通しの良い職場環境を維持している。

【次年度の方針】

- ・引き続き、朝の学習や給食指導、下校指導の際には、担任以外の教職員も学年・学級の支援に関わり、組織的に支援を行えるようにする。
- ・様々な教育活動の実施にあたり、役割分担を明確にして組織的・計画的に取り組めるようにする。

B

4-(3)
学校における働き方改革の推進

A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート
「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答
⇒教職員80%以上

- ① 職員研修等において働き方改革の意識付けと具体的な取組の共通理解を図り、教職員一人一人が、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。
- ② ポータルサイトや学習情報システム等を活用して、業務を効率的に遂行できるようにする。
- ③ 職員会議の協議事項や打合せの口頭説明事項を精査して効率化を図ったり、学校行事の運営の仕方等について見直しを図ったりして業務改善を行う。
- ④ 教職員の業務の効率化を図るため学校業務機動班の効果的・計画的な活用を図り、教職員が校務に関わる時間を確保する。

【達成状況】A16 (○)

児童	教職員	保護者	地域
	87.5		
	70.8		

- ・教職員の肯定的回答が87.5%で目標を達成している。
- ・基本的な電話対応の時間を勤務時間内に設定し、教職員が授業準備や校務分掌等の諸業務に集中して取り組む環境となるようにした。
- ・教職員が勤務時間を意識し、業務の効率化に向けた意識改革を図るため、各自で定時退勤日を設定し、効率的に勤務したり、組織全体の勤務体制の改善を図った。

【次年度の方針】

- ・働き方改革を推進し、教職員が心身のゆとりをもつことにより子供への教育の質を担保することについて、年度当初に職員全体の認識を再確認し、具体策の実効性を高めるようにする。
- ・職員会議の協議事項や打合せの口頭説明事項を精査して効率化を図ったり、分散させたりして業務改善をさらに進める。
- ・計画書や資料の所在が分かりやすくなるよう、業務に係るデータベースの整理を行っていく。

B

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている」における肯定的回答 ⇒保護者80%以上</p>	<p>① 乗り入れ授業、教科分科会、6年生の進学先中学校訪問等を、目的を明確にして効果的に実施する。 ② 行事や児童会活動・集会活動等での交流を実施し、その様子を情報発信していく。 ・あいさつ運動 ・音楽朝会での発表 ③ 「地域学校園の日」を活用して研修や情報交換を行い、地域学校園全体での共通課題の達成を目指す。 ・宝木学校園「生活のきまり」 ・自主学习推進 ・学習のきまり</p>	<p>【達成状況】A17 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 152 1471 273"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.2</td> <td>79.2</td> <td>92.3</td> <td>94.4</td> </tr> <tr> <td>94.6</td> <td>87.5</td> <td>83.5</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>・保護者の肯定的回答が92.3%で目標を達成している。 ・宮っ子チャレンジで生徒を受け入れ1～5年に配属したり、音楽朝会、小中合同あいさつ運動を実施したりして、中学生との交流を行った。 【次年度の方針】 ・教職員がじっくりと小中一貫教育に関する研修に向き合えるよう、「地域学校園の日」等のスケジュールを検討して小中一貫教育・地域学校園の各種計画を企画・立案する。 ・地域学校園の学校間でGoogle クラスルームを利用して、学習や生活の情報交換を活発に行っていく。</p>	児童	教職員	保護者	地域	91.2	79.2	92.3	94.4	94.6	87.5	83.5	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
91.2	79.2	92.3	94.4												
94.6	87.5	83.5	100.0												
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒保護者90%以上</p>	<p>① PTAや地域協議会等と連携し、各教科・領域で充実した体験活動を推進する。 ・ふるさと教室（昔遊び・昔の暮らし） ・読み語り（陽だまりの会・下野民話の会等） ・学習会 ・農業体験（田植え、稲刈り） ・町探検、ミシンボランティア 等 ② 行政や企業と連携した出前授業を実施し、知識や技術、課題解決の方法などを専門家から直接学ぶ機会を設定し、教育内容の充実や多様化を図る。 ・工場見学（カルビー） ・人権教室 ・モノづくり教室（日産） ・上下水道局 ・薬物乱用防止 ・リコーダー教室 ・歯磨き教室 等</p>	<p>【達成状況】A18 (○)</p> <table border="1" data-bbox="1034 779 1471 900"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>92.8</td> <td>87.5</td> <td>93.2</td> <td>88.9</td> </tr> <tr> <td>93.2</td> <td>87.5</td> <td>90.9</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>・保護者の肯定的回答が93.2%で目標を達成している。 ・体験活動の際には、PTAや地域協議会と連携し、体験活動を充実させた。 ・各学年で出前授業を積極的に計画し、学習をより深められるようにした。 ・ICT支援員の授業での活用や別室登校児童対応ボランティアの児童支援等の人材の効果的な活用を行い、教育活動や学校運営を充実させた。 【次年度の方針】 ・各学年での校外学習へ保護者の協力をさらに呼び掛け、多くの保護者と連携して教育活動を進めていく。 ・地域ボランティアやまちの先生の活用も拡充していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域	92.8	87.5	93.2	88.9	93.2	87.5	90.9	100.0
児童	教職員	保護者	地域												
92.8	87.5	93.2	88.9												
93.2	87.5	90.9	100.0												

6- (1)
安全で快適な学校施設整備の推進

A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。

【数値指標】

全体アンケート

「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」における肯定的回答⇒保護者90%以上

- ① 毎月、校舎内外の施設、設備等の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。
- ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にするとともに、緊急時避難体制について、保護者や関係機関、地域の防犯組織や安全ボランティアに学校ホームページや通知等により周知し、実効性のある危機管理体制の構築を図る。
- ③ 感染症予防対策、熱中症予防対策、インフルエンザ予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。

【達成状況】A19 (○)

児童	教職員	保護者	地域
	100.0	95.3	100.0
	100.0	90.3	100.0

- ・保護者の肯定的回答が95.3%で目標を達成している。
- ・毎月、安全点検で危険箇所を把握し、会計年度任用職員（学校業務）や機動班が迅速に修繕に当たるとともに、必要に応じて業者に速やかに修繕を依頼した。
- ・熱中症予防のために、暑さ指数計による暑さ指数の常時のモニタリングにより、児童の諸活動（休み時間も含む）の安全管理を行った。また、冷房設備を適正に使用することにより、健康に生活ができるよう室内温度の管理を行った。
- ・児童在校中には学校の門扉や出入り口の扉を閉じ、防犯対策を行った。
- ・避難訓練を適切に実施し、振り返りを全校で共有し、安全への意識を高めた。

【次年度の方針】

- ・児童在校中の校舎内外の施設を徹底していく。
- ・新年度、速やかに引渡しに関する児童の名前（児童引渡書）等を確認する。
- ・次年度も学校安全に係る学校行事や日常的な安全管理を計画的に実施する。

B

B

6- (2)
学校のデジタル化推進

A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、デジタルを積極的に活用している。」における肯定的回答⇒教職員80%以上

- ① 児童がデジタル機器を活用して、情報を収集・整理・発信する能力を育成するため、デジタル機器等の積極的な活用を図る。
- ② デジタル機器を利用した授業を積極的にを行い、ICT支援員を活用する等をして情報を共有する研修を行い、授業力向上を図る。
- ③ デジタル機器の活用に関連する図書資料や研修資料を教職員間で共有したり、機器を計画的に準備したりするなど、環境整備に努める。

【達成状況】A20 (○)

児童	教職員	保護者	地域
	91.7		
	91.7		

- ・教職員の肯定的回答が91.7%で目標を達成している。
- ・ICT支援員とT、Tで授業を行い、一人一台端末を様々な教科や学習活動で活用することができた。
- ・情報を収集する能力を育成するため、一人一台端末と図書を必要に応じて使い分けて調べ学習を進めた。
- ・学習ソフトを活用したことで、児童一人ひとりが考えたことや理解したことを表現したり、まとめたりしていた。
- ・基礎・基本の定着を図るため、自主学習や宿題等でA Iドリルを活用した。

【次年度の方針】

- ・デジタル機器を活用した授業のアイデアを交流することにより、授業力向上を図る。
- ・ICT支援員と連携を図り、ねらいに即してデジタル機器を利用していく。
- ・基礎・基本の定着を図るため、A Iドリルの活用の仕方を工夫する。
- ・引き続き、一人一台端末の故障機や予備機の管理を適切に行う。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答 ⇒児童85%以上</p>	<p>① 進んであいさつをする態度を養うために、代表委員を中心とした朝のあいさつ運動やあいさつ大賞等の児童の取組を主体とした活動を実施し、全校児童があいさつし合う場を設ける。低・中学年の自主的な参加を推進する。</p> <p>② 中学校との合同あいさつ運動を活性化し、より多くの児童が積極的に運動に参加できるようにする。</p> <p>③ 本校のあいさつ運動を学校便りや懇談会で保護者や地域の方々に周知する。 ・家庭での習慣化</p> <p>④ 地域に向けたあいさつについて、学年に応じて、学級単位で定期的な指導を継続する。</p>	<p>【達成状況】B1 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.2</td> <td>83.3</td> <td>92.6</td> <td>77.8</td> </tr> <tr> <td>92.2</td> <td>87.5</td> <td>95.2</td> <td>86.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答が94.2%で目標を達成している。</p> <p>・あいさつ強化週間中の様々な取組により、児童に挨拶の習慣が定着してきている。</p> <p>・児童は校内ではあいさつがよくできているが、登下校時における地域の方へのあいさつには課題がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・教職員が進んで児童にあいさつなどの声掛けを行い、児童にあいさつの習慣が身につくようにする。</p> <p>・あいさつ強化週間を通して、主体的にあいさつを行う習慣が身につくようにする。</p> <p>・地域の方へのあいさつについて、具体的な場面を取り上げ、実践をとおして指導する。</p>	児童	教職員	保護者	地域	94.2	83.3	92.6	77.8	92.2	87.5	95.2	86.7
	児童	教職員	保護者	地域											
94.2	83.3	92.6	77.8												
92.2	87.5	95.2	86.7												
<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、きまりやマナーを守って、生活している。」の肯定的回答 ⇒児童80%以上</p>	<p>① 全職員の共通理解のもと、朝会・全校集会で全校児童に話をしたり、発達段階に応じて各学級で指導したりして、基本的生活習慣の定着を図る。 ・休み時間の過ごし方 ・授業の始まりの準備</p> <p>② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・廊下の歩行（教室移動時・休み時間） ・終業のあいさつと次時の準備 ・遊び方の共通理解 ・清掃中、清掃後の指導の徹底</p> <p>③ 生活目標を活用し、スモールステップで目標を達成できるようにする。 ・良かった点を各学級において帰りの会等で称賛する。 ・児童指導主任や代表委員児童が放送等で呼びかける。</p>	<p>【達成状況】B2 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89.8</td> <td>66.7</td> <td>90.4</td> <td>76.5</td> </tr> <tr> <td>90.7</td> <td>70.8</td> <td>89.1</td> <td>85.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>・児童の肯定的回答が89.8%で目標を達成している。</p> <p>・学級懇談会や学年だより等で保護者啓発に努めた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・引き続き、児童の実態に合わせて、生活目標を立てて、毎日の振り返りを生かして児童にきまりに沿った生活をする事を意識させる。</p> <p>・「よい子の一日」や「生活目標」に照らし合わせて、ルールやマナーの遵守について放送等で呼びかけ、意識化を図る。</p> <p>・次年度も引き続き、業間や昼休みの校庭、校舎内の巡視を行い、児童の安全指導を行う。</p> <p>・きまりやマナーを守っている児童にスポットライトを当て、子供同士で見つけ合って称賛したり、教師が「望ましい行動」として価値づけたりし、規範を守ることの価値を可視化していく。</p>	児童	教職員	保護者	地域	89.8	66.7	90.4	76.5	90.7	70.8	89.1	85.7	
児童	教職員	保護者	地域												
89.8	66.7	90.4	76.5												
90.7	70.8	89.1	85.7												

本校の 特色・課 題等	<p>B3 教職員は、健康・体力面での適切な個別指導をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生は、健康や運動の大切さについて、熱心に指導してくれる。」における肯定的回答 ⇒児童90%以上</p>	<p>① 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊びの奨励と日常的な運動による体力づくり ・朝の1分間運動の実施 ・歯磨き指導 ・姿勢の改善と視力向上に関する意識づけ <p>② 給食・保健委員会を活用し、健康に関する児童の意識を高めていく。</p>	<p>【達成状況】B3 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.5</td> <td>91.7</td> <td>83.1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>96.8</td> <td>91.7</td> <td>83.3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答が94.5%で目標を達成している。 ・スタンダードダイアリーの生活習慣チェックを活用し、児童が生活を振り返る機会を設けた。 ・児童の成長に合わせて机や椅子の高さを調整し、学習姿勢の改善に努めた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業間、昼休みの外遊びを推奨したり、朝の1分間運動に取り組みせたり、日常的に運動に親しませ、体力の向上を図る。また、宇都宮市の元気っ子チャレンジへの取組を推奨する。 ・今後も学級活動等において、学校栄養士による栄養指導の充実を図る。 ・健康的な生活習慣について、家庭と連携して児童の実態に応じた声かけをしていく。 ・教科体育や日常における健康指導において、児童が健康や運動の大切さを考える学習活動も取り入れながら、自ら健康な生活を過ごせるよう指導していく。 	児童	教職員	保護者	地域	94.5	91.7	83.1		96.8	91.7	83.3	
	児童	教職員	保護者	地域											
94.5	91.7	83.1													
96.8	91.7	83.3													
<p>B4 児童は、授業で習ったことを復習するなど、自主学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宿題や習ったことを復習するなど進んで家庭学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童80%以上</p>	<p>① 西が岡小「家庭学習のすすめ」を活用し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読と個に応じた宿題の徹底 ・発達段階や個に応じた自主学習の進め方の指導 ・家庭学習の時間・やり方・内容の提示 ・学級懇談等での保護者への啓発 ・一人一台端末の活用 <p>② 自主学習の例を掲示して、よい取組を児童や保護者に知らせていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昇降口前の掲示（学習チャレンジ週間） ・リレー自主学習（全学年） 	<p>【達成状況】B4 (○)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>81.6</td> <td>75.0</td> <td>65.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>83.3</td> <td>75.0</td> <td>65.9</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の肯定的回答が81.6%で目標を達成している。 ・リレー自主学習や掲示により、好事例を共有し意欲を高めたこと。「家庭学習のすすめ」で、発達段階に応じたやり方を明確にしたこと。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度取り組んできた「家庭学習のすすめ」を基軸とした習慣化の取組を継続する。特に「リレー自主学習」や昇降口での掲示活動は、児童が互いの学びを参考にし、意欲を高める有効な手段となっているため、次年度もこれらの好事例の共有を積極的に行う。 ・発達段階に応じた学習内容の提示や、一人一台端末を活用した家庭学習のさらなる充実を図るとともに、「家庭学習強化週間」等を通して保護者への啓発を継続する。学校と家庭が足並みを揃え、児童が目的意識を持って自主学習に取り組める環境を整えていく。 	児童	教職員	保護者	地域	81.6	75.0	65.6		83.3	75.0	65.9		
児童	教職員	保護者	地域												
81.6	75.0	65.6													
83.3	75.0	65.9													

B5 縦割り班活動を積極的に行っている。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、たてわり班活動に積極的に取り組んでいる。」の肯定的回答

⇒児童90%以上

① 異学年の交流活動を上級生がリーダーになって主体的に行い、思いやりの心を育てる。

- ・たて割り班による花はなタイム
- ・新体カテスト ・遊友タイム
- ・読み聞かせ ・清掃活動 等

② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、継続的に高学年がリーダーとなる場づくりを推奨する。

- ・遊友タイム ・運動会
- ・企画委員会との連携

【達成状況】B5 (▲)

【児童】	教職員	保護者	地域
88.4	91.7	97.6	94.1
90.7	95.8	97.6	100.0

・児童の肯定的回答が 88.4%で目標を達成していない。

・異学年交流では、読み聞かせは行わなかった。

【次年度の方針】

・異学年交流の目的を学校全体で確認し、班編制の仕方や担当者の配置の仕方等改め、達成感が得られるようにしていく。

・各班で活動の目標と振り返りをできるようにし、交流において児童一人一人がその学年でどのような役割をもつとよいのかを明確にする。

・活動後の「振り返り」で、高学年が「低・中学年の良かったところ」を具体的に褒める時間を設け、低・中学年の貢献を可視化する。

B

B6 児童は、学習や仕事を通して、自己有用感を育み、自己肯定感を高めている。

【数値指標】

全体アンケート

「私は、学級や学年、学校の役に立つように、進んで学習や仕事に取り組み、周りから認められている。」における肯定的回答

⇒児童85%以上

① 各教科等の学習において、一人一人に役割があるグループ活動の機会を設定し、相互に助け合いながら役立つ経験を積ませる。

② 特別活動（児童会活動、学校行事、学級活動（係活動）等）において、友だちや異学年児童との関わりの中で、自分の役割を果たすことにより活躍する機会を設ける。

【達成状況】B6 (▲)

児童	教職員	保護者	地域
73.7	91.7		
78.3	83.3		

・児童の肯定的回答が 73.7%で目標を達成していない。

児童と教職員の意識に乖離が見られる。

・各学級における学級活動において係活動を実施し、一人一人の児童に学級内の係の仕事任せ、自分の役割を果たす機会を設けた。

・各教科等の学習において、グループ活動によって学習課題を解決する場面を設定し、話し合いをしてよりよいアイデアを出したり、協力して活動したりする機会を意図的に設けた。

【次年度の方針】

・役割を果たすだけでなく、それが「どう役に立ったか」を周囲から伝えられる機会を仕組みとして組み込む。

・「役割を忘れずにできたか（達成度）」ではなく、「自分の行動で、クラスや誰がどう幸せになったか（貢献度）」を言語化させる振り返りを行う。

・「決められた役割」をこなすだけでなく、自分たちで課題を見つけ、解決策を考える過程を重視し、自治的な活動を進めることで自己有用感を生みだしやすくする。

・運動会等の大きな学校行事だけでなく、日常の学級会で「自分たちで決めて実行できた」という成功体験を積み重ねられるようにする。

・リーダーシップだけでなく、「細かい作業が得意」「場を和ませる」「ICTに詳しい」など、多様な個性が生かされる場を意図的に設定する。

A

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 西が岡小学校（以下、本校）と宇都宮市立全小学校（69校）（以下、市全小学校）との比較

(1) うつのみや学校マネジメントアンケートにおける肯定的回答率について

本校の肯定的回答割合が、市全小学校の平均を上回っているもの

全 63 項目中 23 項目（36.5%）

2 学校評価書における評価項目のうち、学校が設定した数値指標を基にした達成状況

各評価項目の数値指標を上回っているもの

全 26 項目中 21 項目（80.8%）

3 西が岡小学校（以下、本校）における令和6年度と令和7年度の肯定的回答率の経年変化の状況

①本校の令和7年度の肯定的回答割合が令和6年度の肯定的回答率を上回っているもの

全 75 項目中 28 項目（37.3%）

【内訳】

・児童生徒 21 項目のうち 5 項目（23.8%）

・教職員 26 項目のうち 9 項目（34.6%）

・保護者 18 項目のうち 13 項目（72.2%）

・地域住民 10 項目のうち 1 項目（10.0%）

保護者の評価が全 18 項目中 13 項目（約 72%）で向上しており、学校の取組が家庭に高く評価されている傾向が見て取れる。

一方で、児童の数値は 21 項目中 5 項目に留まっており、次年度の指導における焦点が見える結果となった。

	項目数	肯定的回答率が向上した項目の割合（項目数）	肯定的回答率が減少した項目の割合（項目数）	肯定的回答率に変化がない項目の割合（項目数）
児童生徒	21	23.8%（5）	76.2%（16）	0.0%（0）
教職員	26	34.6%（9）	30.8%（8）	34.6%（9）
保護者	18	72.2%（13）	22.2%（4）	5.6%（1）
地域住民	10	10.0%（1）	60.0%（6）	30.0%（3）

4 学校経営の領域別の評価

《学校運営》

本年度の学校運営に関する取組については、概ね肯定的な評価を得られた。

「働き方改革」では、電話の自動応対時刻の変更や定時退勤日の導入により、教職員の肯定評価が大幅に向上した。今後は会議の精査等を通じ、さらなる業務効率化を推進し、さらに児童と向き合う時間の確保を図っていく。

「安全な学校環境」についても、計画的な施設管理と訓練の実施により、関係者全体から高い信頼を得た。一方で、「小中一貫教育」では、児童や地域から高い支持を得たものの、教職員間の連携意識に課題が残った。今後はねらいを再確認し、組織的な共通理解を深める必要があると考える。

また、「地域との連携」では、保護者から高い評価を得た反面、地域住民の肯定的回答率が前年を下回った。地域の学校協力者と教育活動の目標を再共有し、双方向の連携を強化することで、「地域とともにある学校づくり」をより一層加速させていく。

《学習指導》

本年度の学習指導は、授業改善において大きな成果が見られた一方、表現力の育成や家庭学習の定着に課題が残る結果となった。

「主体的な学習」では、肯定的回答率が目標を達成した。「西が岡スタイル（つかむ・考える・つなぐ・まとめる・ふりかえる）」の定着や ICT・図書資料の活用、教師のコーディネート力向上により、児童が「分かる授業」を実感できた成果と考える。

一方で、「英語によるコミュニケーション」では、肯定的回答率が目標に達しなかった。今後、受動的な学習が

ら「積極的に英語で表現する」学習展開に向けた授業改善が必要と考える。また、宇都宮学やSDGsに関する学習の充実も今後の課題となった。「家庭学習」については、各種の取組を実施したにも関わらず、児童と保護者の肯定的回答率が昨年度を下回ったことから、次年度は個々の実態に応じたきめ細やかな指導を行い、家庭における学習習慣の定着と意欲の維持・向上を図る必要があると考える。

《児童指導・健康（保健安全・食育）指導》

本年度の児童指導および健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組については、児童の主体的な意識向上に成果が見られた一方、自己有用感の醸成や評価者間の認識共有に課題が残った。

「思いやりの心と自己肯定感」では、縦割り班活動（西岡タイム）を通じた異学年交流により、思いやりの心に関する評価が目標に迫る成果を上げた。

一方で、自己有用感・自己肯定感の育成については依然として課題となった。次年度は、活動内での役割分担を明確にし、互いを認め合う「称賛の場」を意図的に設定することで、自分の役割が誰かの役に立っているという実感を育む必要があると考える。併せて、高学年のリーダーシップを一層支援する指導・支援の体制を構築し、活動の目的を意識することを再度徹底していく。

「健康・安全といじめ防止」では、児童の安全意識が目標を上回った。委員会活動や食育の取組が奏功したと言えるが、廊下の歩行等の日常的な規律には教職員との意識差が見られ、継続的な指導が必要と考える。

また、いじめ防止に関しては校内での肯定的回答率が95%を超える一方、保護者・地域住民の評価は90%を下回ったことから、今後も心理的安全性の高い学級づくりを推進しつつ、友人関係のトラブル等に対する家庭への丁寧な報告や家庭との連携をさらに強化し、学校と家庭が一体となった児童の健全育成に関する体制をさらに充実していく。

「体力向上と食育」では、家庭と連携した食育に手応えが見られた一方、体力面では課題が残った。新体力テストの結果を分析し、休み時間の過ごし方や体育の授業改善を通じて、運動習慣の定着を組織的に図っていく。

7 学校関係者評価

【全体的な評価について】

- ・ 「宇都宮の良さ」など、児童の評価が低くなっているところがあるが、全体的に児童の評価が高い。
- ・ 児童は正直に回答すると思う。児童の回答が高いことから、児童は先生を信頼していると感じる。
- ・ 地域との連携について、教職員の評価が低いことから、学校として地域に協力を願う内容は何なのかを把握し、対応していくことが大切である。
- ・ 地域との連携について、地域（地域協議会委員）の評価が下がったが、そのことについて、アンケートの数値のみにとらわれる必要はない。

【あいさつについて】

- ・ あいさつについて、児童から元気にあいさつが返ってくるなどの肯定的評価がある一方で、さらに学校による指導が必要であるとの意見をいただいた。

【安全指導について】

- ・ 自転車に乗る際に、一部の児童がヘルメットをかぶっていないことが気になる。
- ・ 手を挙げて横断歩道を渡ることは定着してきた。
- ・ 高学年児童の態度によって、下級生のあいさつ等の態度がちがってくるので、一層リーダーシップを育てるとよい。
- ・ 巡回指導の様子から、西が岡小学校の児童は17時過ぎには、きちんと帰宅している様子がうかがえる。

【地域との連携について】

- ・ 学校と地域の関係性が緊密で、地域による児童の見守りや地域や保護者が様々な教育活動に協力している。
- ・ 周年記念事業をとおして、多くの保護者の協力を得て学校の環境整備を実施することができた。親子で楽しく参加してもらえたこともよかったので、今後も親子のふれあいができるような活動を実施していく。
- ・ 地域や企業等が児童とともに進める体験的な学習について、じっくりと活動できるよう学習時間が確保されるとよい。
- ・ 1人1台端末を使った学習や外国語科の学習など、大きく教育内容が変わってきているが、ふるさと教室のような昔ながらの体験的な学習を大切に実施していきたい。

【児童の様子について】

- ・ 高学年の児童は低学年の児童の面倒をよく見ている。
- ・ いつの時代も子供は子供らしくあってほしい。地域・家庭が協力して見守っていくことが大切だと思う。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

1. 学習指導の充実

- ・ 「確かな学力」を育む教育の充実に向け、学校課題の研究等を通じて「分かる授業」を目指した授業改善を進めてきた。児童が主体的に学ぶ「西が岡スタイル」の実践やデジタル・図書資料の活用を進めたことにより、児童は学習に前向きに取り組む姿が見られる。

しかしながら、各種学力調査や学習や生活に関するアンケートの結果からは、学習内容の定着に関して課題が見られる。

情報活用能力の育成や主体的に学ぶ児童の育成に向けて教員の授業力の向上を目指していく。

- ・ 外国語活動・外国語科の学習において発話の機会を確保したり、「宇都宮学」等において宇都宮の良さを自ら発信する「発信型の学び」を強化したりする中で、児童が成功体験を積み、自信を育んでいくことができるようにし、表現力の育成を図っていく。

- 家庭学習の習慣化に向け、個々の実態に応じた指導を行い、学校と家庭が連携して学習習慣の定着を図っていく。

2. 豊かな心と健やかな体の育成

- ・ 自己有用感・自己肯定感の向上に向け、宮っ子心の教育を推進していく。特に、縦割り班活動や西岡タイム等での一人一人の役割を明確にし、互いを認め合う「称賛の場」を意図的に設定することで、自分が役に立っている実感（自己有用感）を育んでいく。
- ・ いじめを生まない指導・支援の充実に向け、心理的安全性の高い学級づくりを推進し、家庭との連携を強化していく。
- ・ 体力向上と食育の推進に向け、新体力テストの結果分析に基づき、休み時間の過ごし方や体育の授業改善を通じて運動習慣を定着させるとともに、家庭と連携した食育を推進していく。

3. 学校運営と地域連携の強化

- ・ 学校と地域との双方向の連携に向け、地域協議会等と目標を再共有し、双方向の連携（地域とともにある学校づくり）を図っていく。

- 小中一貫教育の組織的推進に向け、教務主任を中心として小中一貫教育のねらいを再確認し、組織としての共通理解を深め、教職員が一体となって小学校での教育活動を実践したり、目的意識を明確にもって中学校との連携による教育活動を進めたりするようにしていく。

- ・ 働き方改革による教育の質の担保に向け、業務の効率化をさらに進めることで、教職員が心身のゆとりをもち、児童と向き合う時間を確保して教育の質を高めていく。